

はしか・水痘の予防対策にご協力を

病院長 中村 肇

若年者にはしか(麻疹)が流行

首都圏を中心に流行していた麻疹が、5月に入って大阪の専門学校で集団感染が起きるなど西日本にも拡がりつつあります。かつて子どもの感染症であった麻疹になぜ大人がかかるようになったのでしょうか。

20歳代から30歳代半ばの人たちは小児期に麻疹ワクチンの接種を済ませています。しかし、その後、はしかの流行が減ったためにウイルスに接する機会が少なくなり、ブースター効果が得られず、免疫力が徐々に低下したことが原因のようです。

わが国の予防接種法では、麻疹ワクチン接種は1回法を長らく採用し、欧米から「麻疹輸出国」という汚名を着せられてきました。ようやく昨年4月から欧米並みに2回接種法が採用され、1回目の接種は、1歳になったらできるだけ早期に行い、2回目の接種は小学校入学前1年間を対象になりました。就学前の2回目の麻疹ワクチン接種を忘れずに受けるようにしてください。



こども病院の予防対策

こども病院では、職員がかかって子どもたちにつうつと大変なので、新入職員については麻疹、水痘、風疹、おたふくかぜの4つの感染症について未感染者にはワクチン接種を義務付けています。小児期にワクチン接種の既往がある場合でも、抗体検査をして抗体価が不十分な場合には再度のワクチン接種を勧奨しています。今年の場合、接種歴がある職員のうち5%に抗体がなく、再接種をしました。こども病院に実習に来る学生にも、今春からは麻疹、水痘、風疹、おたふくかぜの4つの感染歴・予防接種歴の提出を義務付けさせていただきました。また、ワクチン接種歴がある場合でも抗体価証明を合わせて提出していただくことにしています。

予定入院患者には水痘ワクチンを

こども病院でもっと深刻なのは、感染力が強く、しかも予防接種率の低い水痘です。入院患者が持ち込んでくるケースが少なくありませんので、予定入院の場合には必ず水痘ワクチン接種を済ませてから入院していただくようお願いしています。

感染症対策は、こども病院における最重点課題です。みなさまのご協力をお願い申し上げます。

着任のご挨拶

看護部長 平山ミツヨ



今年4月に植杉看護部長の後任として着任致しました平山ミツヨでございます。

全国に先駆け、高度先進医療を提供するこどもの専門病院として設立された伝統あるこども病院に着任させていただきましたことに身の引き締まる思いでございます。

着任してまもなく外来をラウンドしておりますとカエルの置物に出会いました。このカエルはこども病院の象徴であり、すべての患者様が元気にかえるようにという願いがこめられ「げんきカエル」という名前で親しまれているとお聞きしました。患者様・ご家族のこの「げんきカエル」にこめられた願いに応えられるよう中村院長を中心にチーム医療を推進し、医師・看護師をはじめ全て

の医療スタッフが一丸となって取り組んで参りたいと決意を新たにしているところでございます。更に私たち看護師は当院の基本方針にあります子どもの人権を尊重した看護の実践、子どもへの愛とまことに満ちた看護の実践を心がけながら、患者様・ご家族に常に寄り添い、安心して療養生活を送っていただけるよう支援して参りたいと思います。

かけがえのない子どもたちが元気に退院し、こども病院に入院してよかったと思っただけのような看護部を創っていくことに邁進する所存でございます。どうぞ宜しくお願いいたします。

こんにちは

理学療法士(PT)の中田です。

中田 潔樹



4月から常勤のリハビリスタッフの一人としてのじぎく療育センターから転勤してきました。

現在、本館・周産期医療センターに入院中の方々を中心に、各疾患、術前術後のリハビリを担当しております。

また、外来の方もご家庭でのちょっとした工夫・リハビリの方法などについて、お話をさせていただくことが出来るようになりました。

お子さんの歩き方や姿勢、運動の発達など、家でどのようにすればいいのかと心配に思われた事はありますか？

そんな時に患者さまご本人をはじめ、ご家族の方々にお話をさせていただけたらと思います。

(詳細は、現在かかられている医師にご相談ください)

私は身長・体重ともに遠くからでも分かりやすい体型をしていますので、一目で分かると思います。

入院中のお子さまやご家族の方はもちろん、外来にお越しの方も、お気軽に声をおかけください。今後とも、よろしくお願い致します。

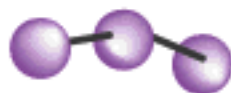
循環器科、というとき少しいかめしい感じがしますが、
心臓のこと、脈のことを診ている科です。

城戸 佐知子

こども病院で見る心臓の病気は、

- (1) 先天性心疾患（生まれつき心臓に穴が開いていたり、血管などに狭いところがあったり、血液の流れの向きが普通と違っていたりする病気）
- (2) 不整脈（学校の検診などで脈がおかしいと言われた人が多い）
- (3) 川崎病とその後遺症（冠動脈病変）などです。

大人と違って、子供の心臓の病気はいわゆる生活習慣病ではなく、生まれつきのものがほとんどで、手術やカテーテルによる治療が必要になるものが多いのですが、中には経過を見るだけでも構わないものもあります。逆に、不整脈は治療が必要になるものは少なく、運動制限の必要性を確認するだけ、ということも多いのです。



循環器科でする検査は、診察はもちろんですが、胸部レントゲン（心臓の大きさ、肺の状態…心臓と肺は繋がっていますので）、心電図（脈の状態、心臓にかかる負担の程度を見る。他に、1日の脈の状態をみる24時間心電図、運動時の脈の反応を見るための負荷心電図など）、心臓超音波検査（心エコー検査、心臓の構造や動きを超音波による断面で見る）などです。その他、核医学検査（肺血流、心臓の筋肉に流れる血液の状態をみるなど）、造影CTやMRI（血管の形態を確認する）などもあります。入院してする検査の主なものは、心臓カテーテル検査です。主に、太腿の付け根の血管からカテーテルという細い管を心臓や血管に進めて、血圧や酸素の量を測ったり、造影剤を流して血管や心臓の形を見る検査です。これによって、どのような治療をするかを決めているのです。

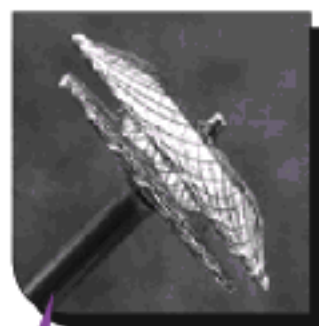
しかし、最近は診断のためのカテーテル以外に、治療のためのカテーテルも増えてきました。動脈管をコイルで閉じたり、狭い血管をバルーン（圧のかかる風船）で広げたりすることができます。数年前から日本でも、心房中隔欠損をカテーテルで閉じることが可能になりました。まだ大きな穴はできませんし、もちろん、手術のほうが適切な穴もありますが、今後どんどん発達していく治療方法とと思われます。当院でも、今年度から可能となり、準備を進めているところです。木曜日の午前中にカテーテル治療のための外来（担当：田中）を設けていますので、成人年齢に達した方も含めて、お気軽にご相談ください。



現在、外来は週5日、月曜日から金曜日まで毎日やっています。外来担当医師は3名（城戸、田中、藤田）、他に専属のスタッフが2名（齋木、寺野）おります。上記以外にも、成人に達した心疾患患者の相談・運動機能の相談（担当：城戸）、胎児心エコー（担当：齋木）なども行っています。



カテーテル検査室内の様子（基本的に全身麻酔です。これは検査が終わってもう止血をしているところです）



心房中隔欠損を閉鎖するためのもの（Amplatzer）

What's new in the hospital?
 診療部とクリニック

FACSIMILE

院外処方せん用FAX機をご利用ください

院外処方せんを保険薬局へ持っていくと
「お薬の在庫が無かった」

「薬が出来上がるまでに長時間待たされた」..

など、すぐにお薬を受取れなかったことはありませんか？

保険薬局によっては、患者さまのお薬をすぐにご用意できないところもあります。また調剤に時間がかかるものもあります。もし、前もって連絡をしておけば取り寄せることができたり、患者さまが来られるまでに調剤しておくこともできます。

そこで、「前もって連絡」に院外処方せん用FAX機(無料です)を活用してみてください！受け取られた院外処方せんを、行きたい薬局にFAX送信しておけば、待つことなくお薬を受け取ることができます。

このFAX機は会計窓口横に設置しています。タッチパネルの指示どおりに操作をするだけで、簡単に送信できます。どこに薬局があるかわからない..とお困りの方は、FAX機の隣に、兵庫県・大阪府・京都府の「処方せん応需薬局」一覧表と「更生医療指定薬局」「育成医療薬局」の名簿を備え付けていますのでどうぞご利用ください。



アンパンマンに会いにレントゲンのお部屋へ来てねっ！

レントゲンのお部屋で新たにアニメのDVDが見られるようになりました。

レントゲン写真は痛くない検査ということは大人数なら誰もがわかることですが、大きな見たことのない機械のお部屋に連れて行かれたら、お子さまは不安になってしまいますよね。

放射線科では不安や緊張を少しでも和らげてあげたいという思いから、お部屋にかわいいペイントをしたり、検査終了後にご褒美のシールをプレゼントしたりすることでお子さまが楽しんで検査室に入ってきてくれるように取り組んでいます。

今回、検査の間も楽しんでもらえるよう新たに撮影室にDVDプレーヤーを設置しました。更衣室から聞こえてくるアンパンマンの歌に誘われて、お子さんが検査室に入ってきてやすい環境作りをしています。

検査の間もDVDを見ながら撮影できるようにお子さまの目線に合わせた位置にDVDプレーヤーを設置しています。

皆さんもアンパンマンを見にレントゲンのお部屋に来ませんか？



Correspondence
From Pharmacy
薬剤部通信

Memorandum
From Radiology
放射線部門のメモ

NST「栄養サポートチーム」について

栄養指導課長 下浦 佳之

「NST」ってな～に？

NST (Nutrition Support Team)とは「栄養サポートチーム」の略称で、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師などの多職種が協力して、それぞれの専門的な知識・技術を活かしながら、患者様個々に適切な栄養管理を実践する院内横断チームのことです。

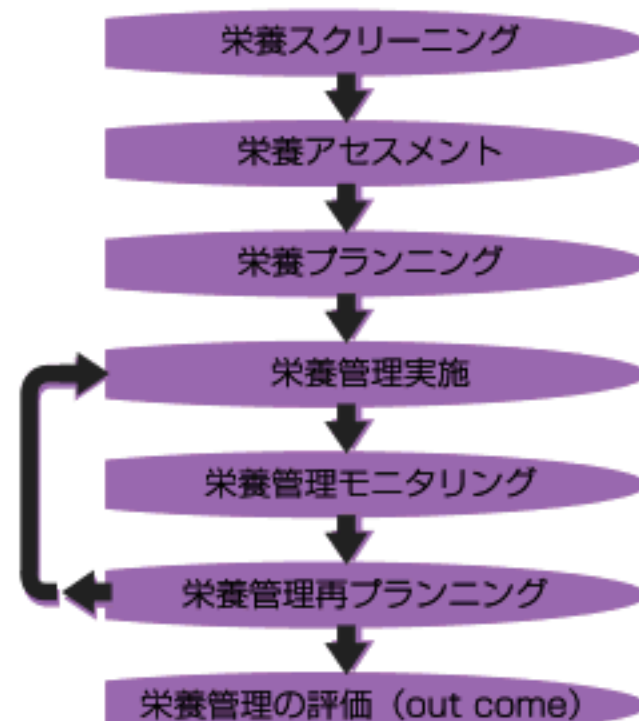


NSTはいつ頃から始まったのか？

というと1960年代アメリカにおいて入院患者に栄養不良（PEM）の状態の人が多く存在しました。PEMの入院患者は回復が遅く、合併症を併発しやすく、死亡率が高くなることが明らかになりました。この状況を打破するために、適切な栄養管理を実施する重要性が認識され、医師1人の力ではなくチーム医療の必要性が唱えられました。1970年臨床栄養学の専門家がシカゴに集まり、NSTが初めて発足し、その後、欧米諸国へと急速に伝播していきました。日本においては、1998年ごろから全国の医療施設でNST設立の機運が高まり、現在多くの施設でNSTが稼働するようになりました。当院においても、平成19年4月よりNSTを設立し本格稼働しております。

NSTは、患者様の栄養状態を評価し、栄養状態に問題のある患者様を特定します。栄養介入が必要な患者様に対して、最適な栄養療法を検討して主治医に提示し、実施するものです。介入後はモニタリングを行い、栄養療法の効果の判定及び合併症の予防に努めます。

栄養管理の流れ



当院のNSTはスーパーバイザーのもと、コアスタッフ、リンクナースを中心に構成されています。コアスタッフ等による週1回のNSTラウンドの実施、月1回のNST部会の開催及び全職員対象のNST勉強会の企画・運営、随時コンサルテーションに対応しています。栄養管理は全ての疾患治療の基本です。栄養障害の改善、栄養障害の発生の予防、合併疾患発症の抑制等、栄養に関する全てのことを管理するのがNSTの役割だと考えています。特に、小児については「成長」と「発達」を十分に考慮した高度な栄養管理が求められるため、NSTメンバーは、常に自己研鑽に努めております。

Notice
From the
Dietician
栄養指導課案内



こんにちは輸血用血液製剤管理室です

検査・放射線部 伊藤 裕子

けがや手術による出血や、病気で貧血状態の患者様に、医師の判断により輸血を行います。

輸血用血液製剤管理室(以下血液製剤管理室)では輸血用血液製剤や自己血の管理、輸血に関わる検査、記録の保管を主な仕事にしています。

<輸血用血液製剤って?>

現在の輸血は、必要とする成分だけを輸血する事で心臓や腎臓の負担が少なくなる“成分輸血”が一般的です。

献血で得られた血液は血液センター(日本赤十字社)で貧血を補う「赤血球」、出血を止める「血漿」と「血小板」の3種に分けられます。これらを輸血用血液製剤(以下血液製剤)と呼んでいます。

赤血球と血漿は温度記録計付きの保冷库及び冷凍庫(血漿は凍結保存)で血液製剤管理室に保管されています。血小板は有効期限が3日と短いため、必要時に血液センターから取り寄せます。



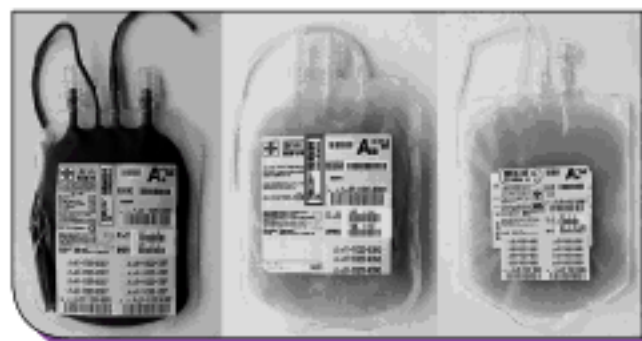
●赤血球濃厚液用保冷库
血液製剤は温度記録計付きの保冷库や冷凍庫に保管されています。



●血液製剤搬送車
(兵庫県赤十字血液センター)
緊急時にはサイレンを鳴らしながら走ります！



●全自動輸血検査機器
輸血前の血液型検査などを全自動で実施します。



●赤血球 (赤血球濃厚液) ●血漿 (新鮮凍結血漿) ●血小板 (濃厚血小板)

<輸血が行われるまで>

ここで実際に輸血が行われるまでの手順を紹介いたします。

1.説明と同意

医師が他の治療法などを検討した上で、輸血が必要と判断した場合、患者様やご家族に輸血の必要性と危険性の説明をし、同意を得た上で「輸血同意書」に署名していただきます。

2.輸血の指示から準備まで

血液製剤管理室は医師からの依頼を受け、血液製剤の準備をします。また、必要に応じて血液センターから取り寄せます。超緊急時にはサイレンを鳴らしながら血液の搬送が行われます。

3.輸血前の検査

輸血をする際、絶対に間違えていけないのがA B O式血液型です。違った血液型の製剤の使用は、命にかかわる場合もあります。そのため血液型検査は機械とヒトによる2種類の方法で判定し、さらに輸血の機会ごとに再検査されます。また輸血する血液製剤の一部と患者様の血液を反応させ、輸血しても安全かどうかを調べます。

4.輸血の実施

医師又は看護師の2名以上で患者様の本人確認と血液製剤の必要事項を確認した後、輸血が開始されます。医師又は看護師は患者様の状態を観察し、カルテに必要事項を記録します。

5.記録保管

輸血終了後処方箋は血液製剤管理室において20年間保存されます。

血液製剤管理室では、輸血が安全に行われ、また献血で得られた貴重な血液が有効に使われるよう安全で適正な輸血を心がけ、24時間体制で取り組んでおります。

Memorandum
From 検査部門からのお知らせ
Radiology



4月から「指導相談部」に来ました、保健師の「久布白（くぶしろ）」です。

前任者に引き続き、患者さまとお母さま・お父さま方の、子育てや発達・療養生活に関する相談をお受けしています。また、人工呼吸器や吸引などの医療処置が必要な患者さまが、ご自宅で生活を始められるときに、生活されている地域の支援者の方と連絡調整をしたり、福祉制度や公費負担制度の利用をご案内しています。時にはご自宅に訪問させていただくこともあります。お子さんの子育ての中で「心配だけどどうしたらいいの

指導相談部
保健師 久布白 歩

かな?」「こんなこと誰に聞いたらいいのかわからない」「地域で支援してくれる人っているのかしら?」などなど…

どうぞお気軽に声をかけてくださいね。

指導相談部は、一般来院入口に入って廊下をどんどん進むと右手に受付があります。

医療費助成制度のご案内も掲示しています。どうぞお気軽にお立ち寄りください。



小児救急医療センター工事

平成19年9月末、完成をめざしています。



1. 本館棟一部解体に際しては業務に支障が生じないように、従来のはつり方法でなく、騒音、振動の少ないウォールソーにより施工いたしました。(写真-1)



3. こども病院らしさを追求するため、建物の内外装のデザインについて宝塚造形芸術大学李教授に協力をいただいています。(写真-3)

お
し
ら
せ



平成18年10月下旬、工事現場の仮囲いから着工して約7ヶ月経過しました。工事は天候に恵まれ予定通り進んでいます。今後梅雨、台風シーズンを控え工事に支障が生じないことを願うばかりです。工事現場が外来患者さんの出入りの多い場所なので、安全第一に工事を実施していますが、皆様のご協力もよろしくお祈いします。

なお、工事では以下のことを重点に施工しております。



2. 工事期間を短縮するため南北二箇所からのコンクリート打ちを行っています。なお、当建物には約1,000m³のコンクリートを使用し、この値はミキサー車230台が運搬したことになります。(写真-2)



- また、小児救急医療センターの完成に先立ち、平成19年3月には非常用発電設備も更新し、災害等による停電に際しては、本館棟を含め3日間の電気が確保できるようになっています。(写真-4)



基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1.子どもの権利を重視した医療の実践。
- 2.安心と信頼の医療の遂行。
- 3.専門的な高度医療の推進。
- 4.地域の医療・保健・福祉機関との連携。
- 5.親と子の健康啓発活動への貢献。
- 6.子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成。

患者権利宣言

- 1.あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2.あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3.あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
- 4.あなたとご家族のプライバシーは守られます。

◆みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。

「げんきカエル」で取り上げてほしいテーマがありましたら、食堂前廊下の掲示板にあるテーマ応募箱へぜひお寄せください。

編集後記

この号が発行される頃には、梅雨も明けすっきり青空の夏本番を迎えていることでしょう。水分をしっかり取り暑さ対策に備えてください。今月号に、小児救急医療センターの工事経過を掲載していますが、夏休みにも入り、一層皆様にはご迷惑をかけていると思います。ご協力本当にありがとうございます。これからも身近な話題を提供してい

きたいと思っていますので、感想やお便りをお寄せ下さい。お待ちしております。今月号の担当は菰野でした。

編集委員長：大橋 正伸（診療部）
編集渉外担当：久布白 歩（指導相談・地域医療連携部）
編集委員：時吉 あけみ（看護部）、福田 朝江（薬剤部）、
藤井 康司（検査・放射線部）、菰野朱美（看護部）

本誌に関するご感想、ご希望、ご質問はこちらまで。

兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL078-732-6961 FAX078-735-0910

URL:<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
E-MAIL:info_kch@hp.pref.hyogo.jp